

## 科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合 議事概要

- 日 時 平成 22 年 1 月 21 日（木）10:00～11:50
- 場 所 合同庁舎 4 号館 742 会議室
- 出席者 津村政務官、相澤議員、奥村議員、白石議員、今榮議員、中鉢議員、金澤議員、藤田統括官、梶田審議官、岩瀬審議官、大石審議官  
(10:00～11:00 まで、大串財務大臣政務官、田島財務省主計官、後藤文部科学大臣政務官、土屋文部科学省総括審議官が出席)

### ○ 議事概要

#### 議題 1. 優先度判定等に関する意見交換

##### <相澤議員、津村政務官説明>

(後藤政務官) ◇ 文科省としては、優先度判定、事業仕分け、パブコメの結果などを踏まえて内容を精査し、優先度の高いものはできるだけ配慮しながら限られた予算の中で財務省と総合的に調整を行った。

(大串政務官) ◇ 財務省では、科学技術振興費の取りまとめと文科省の予算を担当する文科係と、各省の予算を担当する経産係などがある。優先度判定の結果は、各係が各省と折衝する際の議論の中で取り込んで活用している。

(奥村議員) ◇ 要求の仕方が各省の中でも原課単位で細かく分かれているように感じるが、省内予算全体の中での個別施策の順位づけがあってもよいのではないかと。また、予算編成では、まず科学技術振興費の総枠を伸ばすかどうかという議論があると思うが、その際に優先度判定は役に立っているのか。

(後藤政務官) ◇ 継続事業が多くあり、新規案件に充てられる部分は少なく、研究者等からはまず継続事業をしっかり確保してほしいと言われている。また、科学技術予算の枠が縮小すれば、その範囲でやらざるを得ないので、トータルの科学技術予算をどうするのかの議論が必要である。

(大串政務官) ◇ 総額に関しては、国全体の国家戦略としての在り方の問題なので、総合科学技術会議の議員からも意見をいただいて、官邸主導で決めていくということではないか。個別の予算への配分に関しては、総合科学技術会議の優先度判定を役立たせて頂いている。

予算編成プロセスは、各省では春から始まっているので、予算を柔軟に変えるためには、その時期から議論することが必要である。

(中鉢議員) ◇ 限られた財源の中で、何をやらないことにするのが大事だが、その際にはなぜなのかという理由の説明が必要である。企業でも一律に〇%削減などとやってしまうと戦略がなくなりうまくいなくなる。

また、こういうお金をつけてこうなるといったシナリオを作成し、それを丁寧に説明していくことが重要である。

(金澤議員) ◇ 科学技術について、優先度判定、事業仕分け等の複数の評価プロセスがあったが、無駄を省く観点から、財務省が優先度判定に加わることはできないか。

(白石議員) ◇ S 評価は優先度が高いものと考えるが、査定結果をみるとバラつきが大きい。な

ぜ、そのようになったのかを見える形にするためにも、財務省が我々と一緒に優先度判定を行うことはできないか。

(今榮議員) ◇ 各省で類似の施策があるので、要求段階で各省が話し合ったり、その場に総合科学技術会議が加わったりすることができないか。

(大串政務官) ◇ 一度各省から要求が出てくると、それをゼロにするのは難しい。減速という評価であっても 100%になったのは、そもそも前年の予算を見直して要求していたということなどが考えられる。メリハリをつけられるように総合科学技術会議の評価結果を活用したい。

(後藤政務官) ◇ 先生方のご指摘の点は総合科学技術会議が予算編成の方向性を出すというような編成の仕方の見直しまで行かなければ解決しないのではないかと。一方で、橋本行革で科学技術だけだとかなり狭い範囲で限定したもので教育とかそういうものと総合的にということ判断があったはずなので、そこは本質的な部分なので、この点の議論が必要では。また、先生方には、科学技術はやはり単年度要求じゃなくてももう少し長い部分でトータルとしてどのぐらいの資源配分をするんだというある程度の大枠の部分と予算の優先順位を先生方のほうからできるだけ早めに提案していただくことをお願いしたい。

(相澤議員) ◇ 6月に資源配分方針が出るが、この時期はもう各省は具体的な概算要求の固めに入ってきているという段階かと思う。そこで、総合科学技術会議はいつも1月ないしは2月に今年重要と考えられる課題というものを一応提示しており、それに基づいて6月に資源配分方針を出しているが、この間が実際何も機能していないということがあるので、重要課題の提示とともに、アクション・プランという形で国がどういうところを重点に進めるべきかという戦略に基づいたアクションを各省とのやりとりをした上で策定していくと、こういう、アクション・プランというプロセスを入れることを検討している。その際に、新成長戦略が数年先ないしは10年ぐらいのところまでを見越した仕組みを考えているので、その点に関し具体的に総合科学技術会議としてどう進めるべきか、ということアクション・プランとして埋め込むことも考えている。

(津村政務官) ◇ 1月から6月までの空白をしっかり埋めて、PDCAサイクルのCAのところをきっちりやっ払いこう、さらにその次のPにつなげていこうというのがこのアクション・プランであり、今回の新しい試みである。新政権にとって今回の予算編成というのはいろいろな意味で画期的だったが、やはり100日だったということで、まだまだ課題を残した面がある。来年度の予算というのをどういう形でつくっていくかが新政権にとって挑戦であり、その来年度予算を作るときに成長戦略であるとか中期財政フレームだとかという大きな枠が一つの焦点だが、それとともに、政務三役を中心に、省庁の壁を越えながらの議論がどれだけできるのか、それがどれだけ国民の皆さんにお見せできるのかということが重要である。このアクション・プランの議論も省庁間の話はかなり早い段階からするとき、是非後藤政務官始め要求官庁の各政務官からも知恵を出していただきながら、各省の取組を一つに収れんさせていけるかということが、政権全体として統一のとれた、省庁の壁を乗り越えた、政治主導がちゃんとできた予算が23年度に作るができるということにつながっていくと考えている。

(後藤政務官) ◇ 予算をこのアクション・プランではどう配分するかというよりも、どういう年次

計画でどういうことをやっていくという、ある大きい方向性をまず出していくことが重要で、この予算の配分とか平成 23 年度どうするかということに特化しちゃうと、内閣府に科学技術省をつかって、そこに権限と予算を集中するという仕組みの議論となって、財務省が予算編成権を内閣府に渡すかという議論になりかねない。そうではなくて、多分総合科学技術会議が、どのぐらいのスキームで何をやっていくことがいいのかという、大きなまず方向性というものを示し、その方向性に沿って細かな施策の部分があるべきだと思う。

- (津村政務官) ◇ おっしゃるとおりで、政権全体の 10 年戦略として成長戦略がまずあり、これに矛盾するものであってはならない。その次に、科学技術基本計画が、成長戦略の中にしっかりと矛盾なくはまっています、その科学技術基本計画の中にアクション・プランがきちんと矛盾なくはまっているということでない、おっしゃるように単発で策定するということになる。今後藤政務官に指摘の点をこのように整理していきたい。
- (田島主計官) ◇ 研究開発予算は、一度始まると止めることは難しいが、中間評価の際に専門家の目で厳しく評価してもらいたい。重点テーマがあると、各省がそこに集中して同じような予算を要求してくるので、順位付け、重複の排除に知恵を借りたい。特に、競争的資金は同じようなものが多い。総合科学技術会議が中心となり制度をシンプルにして頂きたい。また、公的な科学技術は税金で賄われているもの。総額の金額ではなく中身で議論して頂きたい。

## **議題 2. 科学技術関係予算の重点化・効率化に向けた取組について**

<須藤参事官説明>

- (相澤議員) ◇ 本内容で大臣・有識者会合として案として決定し、本会議で審議することとする。

## **議題 3. 最先端研究開発支援プログラムについて**

<事務局説明>

- (相澤議員) ◇ 日本学術振興会より提出される調査報告書の取扱いについては資料のとおり決定する。
- (津村政務官) ◇ 配布された資料の中に「幅広く推進」「こだわりなく」「等」といった表現が 2 重 3 重にあって、せっかく尖らせたものを作ろうとしているのに、内容が薄まってしまふことが心配である。
- (相澤議員) ◇ グリーン・イノベーションとライフ・イノベーションそのものが尖っている。その中で、我々が予期しないようなアイデアなどが自由に出てくるように、既往の領域を設定したりしないという思いが強く働きこういう表現になっている。
- (奥村議員) ◇ グリーン・イノベーションとライフ・イノベーションの例示の仕方が大きく異なっている。
- (津村政務官) ◇ グリーン・イノベーションの例示の中の「環境先進社会への転換」と「環境先進社会インフラ創り」、「環境・エネルギー先進産業の創出」と「環境・エネルギー革新」、「気候変動への適応」と「地球環境の観測・評価・予測」などの違いがよくわからない。上の表現では「分野にこだわることなく」と言いながら、例示している例は狭い分野のものが多い。
- (相澤議員) ◇ 最先端・次世代研究開発支援プログラム骨子及び運用基本方針の本文については資料のとおり了承されたこととする。別添資料については、時間的な制約があり整合性がとれていない部分もあるが、指摘いただいた点について引き続き調整させて

いただきたい。

**議題4. 総合科学技術会議が事前評価を実施した国家的に重要な研究開発（ゲノムネットワーク研究：文部科学省）の事後評価について**

＜天野参事官説明＞

（意見等なし）

（以 上）